

【授業研究4】 高等学校第2学年倫理「人権の尊重」

(1) 学習指導案

1 単元 人権の尊重（告知をめぐる… ディベート）

2 目標

- 日本人の人権意識に潜む差別や偏見の問題について認識し、日本人として、新しい社会の倫理の確立を目指して、自分自身がいかにか生きるべきか、自己探求の課題を考える。
- 主体的に生きる姿勢を確立し、より豊かな自己の形成に努めるようにする。

3 単元について

(1) 研究主題との関連

青年期と呼ばれる高校生時代は、人生において重要な意味をもっている。この時期に、人生観や世界観の基礎が培われるからである。そこで、講義中心の授業から脱却し、生徒が主体的に授業に参加しながら、自分の生き方に迫っていける方法を試みることにした。

ここでは、「生きることの意義」について探るために、告知をめぐる問題を取り上げることにした。おりしも、ガンの告知を受けて手術に臨むアナウンサーの記者会見が、人々の話題となっていたので主題として非常にタイムリーであると考えたからである。

倫理という科目は、人生をいかにか生きるべきか、よりよい生き方とはどのように生きることであるか、人間社会の思想とは何か、という普遍的でしかも基本的な問題を原理的に探究しようとする学問である。公民科はその目標として「公民としての資質」を養うために、「現代の社会について理解を深めさせ」、「人間としての在り方生き方についての自覚を育て」ることを掲げているが、「倫理」では、特に「人間としての在り方生き方に関する教育」に重点が置かれている。今までの「倫理」は倫理学や哲学・宗教・思想にかたよりがちであった。だが、「倫理」の果たすべき役割を考えた時、教師は何をなすべきか。常に生徒に倫理的な問いかけをしながら、その中に生徒を引き込んでいかなければならないはずである。「倫理」を学ぶということは、そうした問いかけの中から、自分自身の生き方、そして「人間としての在り方生き方」について考えようとする意欲を育てることにほかならない。

(2) ディベートの意義

生徒が、より主体的に授業に参加できる形態としてクローズアップされてきたのがディベートである。生徒の自発的探求を誘う学習として、試みる価値は十分にある。だからこそ、ディベートを取り入れた授業を実施する高等学校が、増加する一方なのだろう。「日本の風土に合わない。」「ディベートは単なる流行である。」「AかBか、勝ちか負けかで思考力などつくはずがない。」そういった批判の声も確かに聞こえてくる。だが、生徒の知的関心を喚起させ、主体的に考え発表することが可能なディベートを授業に取り入れることも一つの方法のはずである。高校生の多くは、人前での発表に抵抗を感じるようである。最も感受性の強い年代である彼らにともかくものを言わせたい。そのために、ゲームとしてディベートを取り入れたらどうだろうか。案外おもしろがって、のってくるのではないだろうか。生徒の心を引きつけるようなテーマが設定できれば、積極的にディベートに取り組んでくれるに違いない。こうして、ディベートを体験させ、回を重ねながら「自らの生き方に迫る」主題へと発展させていくことにしたのである。

ディベートという、討論の部分だけが強調されがちだが、討論に入る前に行う資料の収集や、事前の学習が重要である。それら入念な準備が、討論に生かされていく。実際に人前で意見を述べるには、発表力や表現力だけでなく、これらの資料をどう意見に取り入れるか、といった思考力も必要になるからである。ここでは「告知」という、生命倫理を考える上でも極めて難解なテーマを取り上げることにした。「生き方」に迫るために、まず、「生命」について考えてもらおうというねらいからである。

4 学習計画 (5時間)

(1) 人権意識と差別について _____ 1時間

(2) 生きることの意義 _____ 4時間

第1時……生命について

第2時……告知をめぐる (賛成派の主張と反対派の主張を知る)

第3時……告知をめぐる (ディベート) (本時)

第4時……よりよく生きるために

5 本時の学習

(1) 目標

- 告知をめぐる日本社会の状況を探り、その在り方について考える。
- ディベートを通して倫理的に問題を考え、思考力を高めながら、自分自身の生き方を考える。

(2) 資料

ア プリントⅠ (告知の現状)

イ プリントⅡ (逸見政孝氏に関する記事より)
(告知賛成派)

ウ プリントⅢ (ハナ肇氏に関する記事より)
(告知反対派)

エ プリントⅣ (ディベートの技術)

(3) ディベートの手順

ア 賛成派が、その理由を述べる。(2分)

イ 反対派が、その理由を述べる。(2分)

ウ 賛成派から反対派に対して質問。反対派より回答。

賛成派はさらに質問する。(5分)

エ 作戦タイム (2分)

オ 反対派から賛成派に対して質問。賛成派より回答。反対派はさらに質問する。(5分)

カ 作戦タイム (2分)

キ お互いの論点の弱点を見つけ追求する。さらに自分たちの正当な主張を続ける。(10分)

ク 作戦タイム (2分)

ケ 賛成派は最後の主張をする。(2分)

コ 反対派は最後の主張をする。(2分)

サ 勝敗の決定



賛成派の弁論



反対派の弁論

(4) 展 開

学 習 活 動	資料	指導上の留意点																									
1 告知の現状を話し合う。 2 よりよく生きるために告知をすべきかどうかについて考える。	ア イウ	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の内容を復習し、賛成派と反対派の相違点を明らかにする。 																									
3 ディベートのルールを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・勝ち負けを競うゲームであること。 ・事実と証拠を提示して主張をする。 ・さわやかな口調・態度を通すこと。 ・多少の演出は効果的である。 (声の大きさ、表情など) </div> 4 賛成派と反対派の二派に分かれ、ディベートを開始する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%; text-align: center;">書</td> <td style="width: 10%;"></td> <td style="width: 10%; text-align: center;">○○○○○○○</td> <td style="width: 10%;"></td> <td style="width: 10%; text-align: center;">△</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">記</td> <td style="text-align: center;">司</td> <td style="text-align: center;">賛成派</td> <td style="text-align: center;">○○</td> <td style="text-align: center;">参△</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">会</td> <td style="text-align: center;"> </td> <td></td> <td style="text-align: center;">○○</td> <td style="text-align: center;">観△</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">書</td> <td style="text-align: center;">教</td> <td style="text-align: center;">反対派</td> <td style="text-align: center;">●●</td> <td style="text-align: center;">者△</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">記</td> <td style="text-align: center;">師</td> <td></td> <td style="text-align: center;">●●●●●●●●</td> <td style="text-align: center;">△</td> </tr> </table> </div> 5 勝敗を決定する。	書		○○○○○○○		△	記	司	賛成派	○○	参△	会			○○	観△	書	教	反対派	●●	者△	記	師		●●●●●●●●	△	エ	<ul style="list-style-type: none"> ・ディベートの意義を説明し、活発な意見の交換ができるようにする。 ・生徒主体の展開となるよう留意し、進行は原則として司会者にまかせる。 ・各自の意見を真剣な態度で聞き、積極的にディベートに参加できるような雰囲気をつくれるよう、適切な助言をする。 ・二派に分かれる時には、すみやかに移動し、態勢を整えるよう指導する。 ・生徒の様子を見ながら、適宜、助言を加える。 ・勝敗は参観者の挙手によって決定する。
書		○○○○○○○		△																							
記	司	賛成派	○○	参△																							
会			○○	観△																							
書	教	反対派	●●	者△																							
記	師		●●●●●●●●	△																							
6 賛成派と反対派の論点を確認する。		<ul style="list-style-type: none"> ・論点を整理し、総評を行う。 																									

(5) 評 価

- ・主体的にディベートに参加できたか。
- ・「告知」の現状と問題点について理解できたか。
- ・ひとつの問題について真剣に考える態度と、人の意見を真剣に聞く態度が、身に付いたか。



作 戦 タ イ ム

(2) 学習活動の展開

(1) 導入 (教師の指導)

- ① 本時までの学習内容を確認する。ディベートの技術をプリントで説明する。
- ② 生徒の立場を挙手により明確にする。(告知賛成・18人 告知反対13人)
- ③ 机の移動、司会者と書記の選出をする。

(2) 討論 (教師の指導・助言→T 告知賛成の意見→Y 告知反対の意見→N)

- Y. 残された時間を有効に生きられる。死後に争いがおきないよう、財産を分けておくことができる。
- N. 人格に相違があるので、告知のショックで寿命が短くなったり、長く生きられないと知り、悪いことをしたり、暴走する。
- Y. 告知されずにいて、なにかの機会にガンであると知ったら、いつ死ぬのか不安でいっぱいになってしまう。
- N. 知らなければ、最後まで気ままに生きられる。

(司会) 作戦タイムの指示 (約1分30秒)

- N. 家族のほうが患者の性格を知っているから、家族が告知すべきであって、医師による告知には反対である。
- Y. 家族とともに励ましあえるのでよい。また、前の意見で家族の告知を認めることは、告知に賛成することではないか?
- T. 相手の弱点をついてきましたね。
- N. 医師の告知に反対であるから、告知に反対の立場に変わりはないと思う。
- Y. 医師によるほうが、医学的に正しい知識で行える。
- N. 医師は、患者と短期間しか接していない。日本でも、家族には100%告げるが、本人には18%しか告げないのは、生きる意欲を失う例が多いという実態があるからだと思う。
- T. 部分的賛成であって、反対の論理としては、弱いかもしれません。
- N. 最後まで希望を捨てないので告知しないほうがよい。
- Y. 患者は、さまざまな知識からガンと気付いてしまう。ガンとは、一人では戦えないので、告知をしてから、家族と医師と患者が協力して戦ってゆくべきだ。
- N. 人間には個性がある。また、老人は体力がないので、ショックが大きすぎる。
- N. いろいろな国のデータを見ても告知する例は少ない。
- T. 「よりよく生きるために告知は必要か」というテーマで討論しています。さらに、「もし、自分だったらどう考えるか」と考えて、討論を進めてみよう。

(司会) 作戦タイムの指示 (約1分30秒)

- Y. 資料の逸見さんのように、ガンと戦う気持ちになれる。
- Y. 逸見さんのように、周囲からも励まされる。
- N. 逸見さんのように、頑張れる人ばかりではない。また、アメリカでは、幼い子供にまで告知しており、日本もやがて同様になってしまう恐れがある。
- T. 告知を一度認めたら歯止めが効かなくなってしまう。それに対してどうですか。
- N. 自分の親が末期ガンで助からないとなったら、家に帰して介護したい。ガンと知らずに、助かる望みも持ったまま死んだ方が幸せだと思う。
- N. ガンと戦う意志がもてるということに対して、戦う意志のもてない人には、どう対処すればいいのですか?
- T. 疑問が提示されました。戦う意志のない人に対してどうしたらいいのか。賛成派から疑問に答えられないと今回のゲームは決まってしまう。
- Y. 家族と協力すれば、戦う意志をもたせることができる。
- N. もし、家族がいなくて、自分一人の場合はどうするのですか?
- Y. 医師と協力して戦う気持ちをもたせてあげればよいと思う。
- Y. 逸見さんのように、同じガン患者同士で協力すればよいと思う。
- N. 逸見さんの場合は、早期ガンなのでいいのですが、末期ガンで戦う意志がなくなった場合はどうするのですか?
- Y. 患者は自分の体なのでガンと気付いてしまう。思い切って告知して、後は家族と一緒に暮らしたり、やり残したことをするほうがよい。
- N. 告知しないで痛みだけとってやれば、ガンが治ったような錯覚になり、安らかな気持ちで死ぬことができる。

(司会) まとめのための作戦タイムの指示 (約2分30秒)

- Y. 痛みをとる治療にも副作用があるので、告知しておいたほうがよい。
- Y. 死期を知ることにより、今までになかった視点が養われる。
- Y. 告知を受けてショックはある。家族の協力も得られれば、やり残したことに最後まで取り組んで残された時間を有意義に送ることができる。
- N. 告知は大きなショックであって、知らないほうが、安らかな気持ちでいられる。
- N. 死に対する恐怖を知らないで最後まで穏やかにいられる。
- N. ガンではないと信じて、生きる希望を失わないでいられる。

(3) 判定 (参観教師による) 賛成意見に正当性→0人 反対意見に正当性→11人

ディベート討論会の論争の形式はいくつかあるが、ここでは、それぞれの生徒がもっている意見を尊重してグループ分けをするという方法をとってみた。慣れてくれば、また別の形式をとることも可能であると思われる。では、今回の授業を通して、生徒の活動状況はどうだっただろうか。残念ながら、全員が積極的に参加する、というわけにはいかなかったようである。だが、講義中心の授業では見せてくれない生き生きとした表情を、ここではたくさん見つけることができた。

(3) 実践の考察

生徒が主体的に参加しながら、自らの生き方に迫っていく授業を、ここではディベートで試みることにした。しかも、「生きる」という問題を「告知」を通して考え、自分自身の生き方にまでつなげていくというのが、本時のねらいであった。はたして、この目標は達成できたであろうか。授業前と授業後とで、生徒の意識に変化がみられたかどうかを探るため、生徒36人にアンケートを実施している。その内容は、1. ディベートという授業形態に関するもの、ディベートを通しての学習意欲の変化、2. 「告知」に関するもの、3. 自らの生き方についての意識、4. 学習についてである。

ディベート前	ディベート後
1 ディベートについて ・おもしろそうだなと思った。 (50.0%) ・何も感じなかった。 (16.7%) ・やりたくない (33.3%)	1 ディベートを取り入れた授業を ・積極的に学習できた。 (55.6%) ・普通に授業を受けた。 (33.3%) ・仕方なく授業を受けた。 (11.1%)
2 告知の意味について ・よく知っていた。 (30.6%) ・何となく知っていた。 (52.8%) ・わからない。 (16.6%)	2 ディベートを通して「告知」の意味が ・よく理解できた。 (94.4%) ・どちらともいえない。 (2.8%) ・理解できなかった。 (2.8%)
3 自分自身どう生きるか考えたことは ・あ る。 (63.9%) ・な い。 (36.1%)	3 この授業を通して「生きる」ということを ・考えた。 (97.2%) ・考えなかった。 (2.8%)
4 ディベート前の学習について (複数回答) ・図書館や図書室で学習した。 5人 ・本屋で関係する本を探した。 8人 ・新聞や雑誌に目を通した。 13人 ・教科書や資料をよく読んだ。 16人 ・関係のラジオやテレビを視聴した。 8人 ・特に何もしなかった。 11人	4 ディベート後の学習について (複数回答) ・図書館や図書室で学習した。 3人 ・本屋で関係する本を探した。 4人 ・新聞や雑誌に目を通した。 6人 ・教科書や資料をよく読んだ。 5人 ・関係のラジオやテレビを視聴した。 6人 ・友人や家族・先生と話し合った。 17人 ・一人でよく考えた。 18人 ・特に何もしなかった。 7人

生徒の率直な感想としては、「みんなの考え方がわかっておもしろかった。」「実社会に出た時必ず役立つと思う。」「クラスがひとつにまとまった。」「学習意欲がでた。」といったことがでていた。ただし、「もうちょっと勇気を出して発言すればよかった。」「意見を述べる人が偏りがちになる。」「全員参加しないとつまらない。」「つい感情的になってしまう。」といったマイナス要因を上げていた生徒もあった。これは、クラス全員参加の形でディベートを実施したがゆえの問題点であると思われる。しかし、仲間の声に真剣に耳を傾けることで、自らの生き方を考える機会が得られたことは確かである。